

# 芸術学科

TR テキストレポート科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目

※下記で紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

## 芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります(芸必修=芸術学コース必修、歴必修=歴史遺産コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学基礎	TR	2	有	芸術の理論的研究に取り組むために必要な基本的語彙(キイ・ワード)の意味を理解する。あわせてそれを実際の作例に即して考えることを試み、感性的な対象に向けての理論的な思考を培うことを目標とする。※芸必修
美術史学基礎	TR	2	有	日本・東洋・西洋の美術史学の研究に親しむための入門科目。具体的な作品研究を扱う優れた文献講読を通して、作品をどのように見たいのか、また作品をどのように解釈したいのか、という美術史研究の基礎を実践的に学ぶ。
京都学入門	TR	2	有	歴史の舞台としてその中心地であった「京都」は、時代のおおきな変革の中で、つねに変貌し再生してきた。そのあとをたどることで、政治・経済・文化の歴史の変遷を学び、歴史都市「京都」の理解を目指す。
史料学基礎	TR	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料にはさまざまな種類があり、その特質など史料論を理解する科目。※歴必修
史料講読基礎	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料を読むための基礎を理解出来る科目群。※歴必修
日本文化の源流	TR	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	2	有	
日本の生活文化	TR	2	有	
芸術学概論	S	1		芸術活動は古くから人々の関心を惹き続け、それを巡るさまざまな議論が重ねられてきた。芸術の諸領域にまたがる基本的な問題をいくつかとりあげ、これまでどのようなことが論じられてきたのかを概観するとともに、芸術学の立場や方法を講じる。※芸必修
美術史学概論	S	1		美術史を学ぶための入門科目。日本・東洋・西洋の著名な美術作品を取りあげながら従来のさまざまな研究について学ぶ。過去の研究の方法論を学び、残された課題や新たな研究の可能性を模索する。※芸必修
日本美術論	S	1		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	1		美術史研究のさまざまな方法論を学びながら、作品について理解を深め、西洋美術史研究のための基礎的な能力を身につける。
アジア美術論	S	1		[中国]世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島]高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
音楽文化論	S	1		音楽を文化的システムとして考えることから、さまざまな音楽文化現象を読み解く。
京都の歴史	S	1		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的な事柄を、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的な理解を目指す。※歴必修
文献資料講読	S	1		古文・漢文などの歴史的な史料を読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。※歴必修

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
京都学研修1	S	1		「京都」は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史や伝統行事の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切に、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。
京都学研修2	S	1		
江戸の歴史	S	1		江戸は、いうまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的理解を深める。
詩歌と日本文化	S	1		和の伝統文化を構成する「芸能」、「工芸」、「詩歌」、「花道」等について、その歴史や思想に関する幅広い基礎知識を講義形式で学ぶ科目。※和必修
伝統芸能と工芸	S	1		
室礼ともてなし	S	1		
伝統芸能の諸相	S	1		
花道文化の展開	S	1		
伝統文化の空間	S	1		
アカデミックスキル入門	S	1		
史料講読応用	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、史料講読基礎での理解を踏まえて、史料の読解力をさらに養う科目。
古文書入門	TR	2	有	くずし字の読み解き方、意味のとり方など、古文書を読む基礎的な力を養う。実際に史料を読み解き、読解力を養うとともに、その史料の持つ意味について考察する力を養う。
歴史遺産 Ⅲ-5	S	1		『くずし字用例辞典』の引き方をはじめ、くずし字の読み解き方、意味のとり方など、古文書を読む基礎的な力を養う。江戸時代の人々が書き残した本物の古文書に触れる実習も行う。また、古文書の具体的な調査方法、取り扱い方法なども学ぶ。
アカデミックスキル実践(1) ディスクリプション	S	1		芸術学の研究にとって欠かせないディスクリプションについて、実際に美術作品を取り上げながら実践的に学ぶ。
アカデミックスキル実践(2) 民俗の調査方法	S	1		様々な祭礼や行事について研究する基礎として、聞き取りなどのフィールドワークの調査を実践的に学ぶ。

## 研究成果を卒業論文にまとめる。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
<b>2年次</b>				
論文研究基礎演習	TX	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。
論文研究基礎	S	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見い出していくのかを学ぶ。課題の論文についてグループで討議をしたり、個人で要約作成に取り組むことで、先行研究に対する客観的批判力を養う。※歴必修
<b>3年次</b>				
論文研究特論	S	1		歴史・美術史・芸能史などの専門家による研究成果の一端を講義で学ぶ。専門家の研究内容から、最新の研究成果を知るだけでなく、データの収集方法、史料の解釈の仕方、論理の立て方など、論文を書くためのヒントを学び取る。※歴必修※ア履修不可※文2024年度以降入学生履修不可
論文研究 I-1(芸歴和)	S	1		卒業研究(卒業論文)に直結した科目。学生が自ら研究テーマを見つけて研究し、発表し、複数の教員がゼミ形式で指導する。 ※芸・歴・和のみ履修可かつ必修
論文研究 I-2(芸歴和)	TX	1		
論文研究 II-1(芸歴和)	S	1		
論文研究 II-2(芸歴和)	TX	1		
<b>4年次</b>				
論文研究 Ⅲ	TX	2		「論文研究1」「論文研究2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。
卒業研究(芸歴和)	TX	8		これまでに学習してきたことの集大成として、自らの研究成果を文章に表現し、発表する。※芸・歴・和のみ履修可かつ必修

# 歴史遺産

## 芸術学科 歴史遺産コース

TR テキストレポート科目
 TX テキスト特別科目
 S スクーリング科目
 必 必修科目
 選必 選択必修科目
 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

### 歴史遺産コース専門教育科目

歴史遺産学を考えていくための基礎的な専門知識を身につける。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
歴史遺産学基礎講義	京都学	TR	必	2	有	1200年を超える歴史を積み重ねてきた「京都」。その伝統と創造が繰り返されてきた歳月をいかに学ぶべきか。テキスト「京都の歴史」を通じて、京都を学ぶための基礎を構築することを旨とする。※歴必修
歴史遺産学 I-1	文化遺産入門	TR	必	2	有	文化遺産に関わる人々の活動や思想について学ぶ。
歴史遺産学 I-3	考古学研究	TR	選	2	有	発掘された遺跡や遺物をさまざまな角度から分析し、日本の文化がどのように変化してきたかを理解する。
歴史遺産学 II-1	文化財保存修復概論	TR	必	2	有	日本の文化財を保存・活用するためには、それらがどんな材料からできているのか、どのような技術でできているのか、そして修理するための技術にはどのようなものがあるのかを知っておく必要がある。とくに損傷しやすい紙、絹、漆、木材などで作られた文化財を中心に、基本的な事柄を学習する。
歴史遺産学 II-3	世界遺産学	TR	必	2	有	本講では世界遺産とは何かを学ぶ。日本には世界遺産に登録されている文化遺産が多数あり、登録された理由はそれぞれに異なっている。とくに登録された結果、著名な観光地となる一方で、地元利益とともに不利益をもたらしていることも事実である。このような観点から、世界遺産の保存と維持について多角的に分析する。
歴史遺産フィールドワーク1	中世鎌倉を歩く	S	選必 (1単位以上)	1		鎌倉時代を中心とする中世の歴史を、歴史的な「場」としての鎌倉とその周辺地域での実地研修を通して学ぶ。また、豊富に伝来する貴重な中世古文書を通して、京都と並ぶ古都鎌倉の歴史的意義や鎌倉時代の歴史的理解を深める。
歴史遺産フィールドワーク2	京都大原を訪ねて	S		1		京都の北の郊外に位置する大原は、平安時代から宗教・文化的に独特の地域性をもつことで知られている。フィールドワークを通じて、平安、鎌倉時代の大原の宗教文化を学ぶとともに、寂光院では焼損文化財を通じて文化財の保存について考え、またさらに近世の民俗芸能、古文書から垣間見ることができるとして在地の生活文化にも触れ、地域の歴史を多角的に紐解いていく。
歴史遺産学概論	ものところの歴史遺産	S	必	1		歴史遺産学を学ぶために大切なふたつの分野(もの(文化遺産))と(ところ(歴史文化))について、歴史文化、文化財科学、保存修復などの各分野の専門教員がおこなうオムニバス講義。
歴史遺産 II-1	文化財の保存と活用	S	必	1		文化財や世界遺産(文化遺産)の学習を始めるにあたり、基礎的な事項、つまり法律や文化財の種類などについて学ぶ。同時に文化財保護に関する最新のトピックスも紹介する。
歴史遺産 II-2	文化財と保存修理	S	必	1		文化財を形づくっている材料と、その修復、保存について学習する。とくにここでは、糸、木、漆、膠など、日本の文化財を形成するもっとも基礎的な材料が使われている文化財について学ぶ。
歴史遺産 II-4	世界遺産比叡山延暦寺	S	選	1		世界遺産に登録されている文化遺産延暦寺を実際にたずね、行事や現地踏査を通して、その意義や地元と与えた影響、将来にわたって維持していくための課題などを取り上げる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
歴史遺産 Ⅲ-1	美術品の調査方法	S	選必 (1単位以上)	1		絵画や彫刻という美術資料について基本的な歴史を概観した上で、実際に卷子や掛け軸に仕立てられた資料や仏像の取り扱いについてを実習で学ぶ。また調書のとり方、写真撮影の方法なども実際の美術資料を使ってグループで取り組み、調査の基礎を体験的に学ぶ。
歴史遺産 Ⅲ-2	民俗文化の調査方法	S		1		民俗学に関わる多様な資料の調査方法を学ぶ。民俗資料の意義を知り、有形民俗資料の調書のとり方や拓本のとり方、無形民俗文化財に関する聞き取り調査の方法や調書のまとめ方などを、実地研修を通して理解する。
歴史遺産 Ⅲ-3	中世～近世活字史料の読解	S	必	1		歴史を研究する上で不可欠なのが、史料を読み解く力。この授業では、中世から近世の史料を実際に読み解いて読解力を養うとともに、その史料の持つ意味を考えて、自ら考察する力を養う。